

アルミスクラップ相場、下げ模索へ

原料需給が頭打ち、供給過剰に

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

【概況】十一月前半、

雇用統計、小売売上高を始めたとする米経済指標を好感、さらに注目のFOMCが六〇〇億ドルの金融緩和を発表したこと、そして

十月の中国自動車販売が前月比二・五%増と大幅上昇したこと、流動資金が流入、LMEアルミも二、五〇〇ドルをつけた。後半は中国の利上げやアイルランド国債のデフォルト懸念からファンダメンタルズが悪化したもの、十月の米個人消費や米年末商戦の滑り出しが好調だったことや、IMF・EJがアイルランド救済に最大一〇兆円で合意したことを好感し下げ幅が縮小、十一月一日現在、LMEセツルメントは二、四五〇ドルでのスタートとなった。

【前月の経済指標】

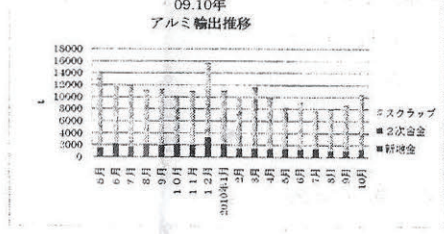
◆自動車各指標及び新設住宅着工戸数については、昨報第一～二面参照

◆貿易指標

輸入	8月	9月	10月
原油	15万6007t	14万458t	12万9758t
前月比	+18.3%	-10.4%	-7.6%
二次合金	8万7875t	8万6098t	9万1243t
前月比	-10.2%	-2%	-6%
スクラップ	666t	705t	677t
前月比	+5.4%	+5.4%	-4%
合金スクラップ	6359t	6478t	6360t
前月比	+15.4%	+3.4%	-18.5%



輸出	8月	9月	10月
原油	179t	149t	158t
前月比	-20.7%	-16.8%	+6%
二次合金	892t	978t	1136t
前月比	-25.3%	+9.6%	+16.2%
スクラップ	6938t	7094t	9230t
前月比	+8.4%	+9.5%	+21.5%



【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・六%増の一七万七、一六二t(前年同期五・三%増)。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比一・二%減の六万七、九一〇tであった(前年同期四・六%増)。(関連のグラフはいずれも第八面に掲載)

【見通し】

自動車生産は前月比一八・七%減の七五万台と大幅下落、季節要因を考慮しても前年同期の一・一%減からは大幅悪化し、十一月の数字が注目される。それに伴いアルミニウム二次合金生産も前月比一・一%減とついに頭打ちとなった。

また、十一月の国内自動車販売が二〇万三、二四六台の前年比三〇%減とリーマン以降の最低水準。

圧延・押出品生産数は前月比三・六%増と前年同期の五・二%からは伸び悩み。新設住宅着工数も七万一千戸台と前月と変わらずとなった。

アルミ輸出入統計は国内需要の悪化に伴い、前月に引き続き輸出増・輸入減の流れになった。

原料需給は十一月の国内自動車販売不振から頭打ちがほぼ確定。輸入塊も上海シグマでは十一月末現在で二、三三〇ドルと国産ADCと比べて安くはないが、年内は目新しい政策もなく、自動車販売不振不安やエコポイント終了による家電販売不振や円高などマイナスイヤ因が多く供給過剰になる。

LME価格についてはアイルランドを始めとする欧州懸念はあるものの、今に始まったことではなく影響は限られる。中国の金融引き締め不安は残るものの、むしろ米国追加金融緩和策によるドル安期待や前月に続く中国の環境目標達成のためのアルミ精錬所閉鎖を背景としたテクニカル買いもあり、二、三五〇～二、五〇〇ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては十一月の自動車販売の大幅悪化から頭打ちは確定、改善は見られず悪化を探る展開から十一月後半価格から据え置きから五円安の予測。